

## 令和6年度 県立盲学校 自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆幼児児童生徒が毎日通うのを楽しみだと思える学校</li> <li>◆教職員が誇りと自信、やりがいをもって勤務できる学校</li> <li>◆保護者が子供を安心して通わせたいと信頼される学校</li> </ul>		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内や教材教具の整理整頓、壊れた備品の廃棄等を適切に行ったり、刃物や針等の管理を徹底したりして教育環境をお整え、安心・安全な教育環境のもと教育活動を進めることができた。</li> <li>・職員会議後に「子ども理解連絡会」をもつことで、全教職員が幼児児童生徒の指導上の配慮等についての共通理解を図り、指導体制の再確認を行ったり、安全な教育環境を整えたりしながら日々の指導支援にあたることができた。</li> <li>・通学指導や通学路の安全点検による登下校時の安全確保、情報モラル教室、スクールカウンセラーの活用、生活アンケート等の実施による情報モラルの向上、いじめや問題行動等の未然防止等、児童生徒が安心安全に学校生活を送ることができるよう活動することができた。</li> <li>・いじめ問題に関する教職員の意識の共有を図る必要がある。</li> <li>・グラウンドの安全な教育環境の整備と維持が課題である。</li> </ul>	1 安全・安心な教育環境の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>①環境の整備、安全点検等の徹底による事故や感染症の未然防止。</li> <li>②自分や他者の健康や安全、自己管理能力を育てる指導の工夫。</li> <li>③いじめ防止、情報モラルの取組の強化。</li> <li>④校内の相談・支援体制の充実。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部の指導についての情報共有や教材教具に関する研修の実施により授業改善を図ることができた。</li> <li>・ICT機器の活用による学びやすい環境の整備が進み、効果的な活用を工夫しながら児童生徒が主体的に取り組める授業実践ができた。</li> <li>・外部講師を招聘した研修会や専門性研修の実施により、教員の専門性を高めることができた。</li> <li>・少人数の中での多様性の育成や学習集団や学習形態の工夫、共同で学びを深める取り組みの設定が課題である。</li> <li>・児童生徒の語彙力や表現力を高める指導の在り方や、イメージや経験を増やすことができる教材教具等について更に研修を進めていく。</li> <li>・生徒が自分の課題を主体的に改善できるよう支援方法を工夫したり、学習方法に関するより具体的な指導を行ったりしていく必要がある。</li> <li>・関係機関や専門家等からの指導助言内容や研修等で得た情報を共有し、実態把握や指導に活かすための更なる工夫が必要である。</li> </ul>	2 個に応じた学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業の工夫・改善による主体的・対話的で深い学びの実現。</li> <li>②ICTを活用した学習活動の充実。</li> <li>③児童生徒の見本となる授業へ臨む姿勢。</li> <li>④各部の生活年齢と障害特性に応じた特色あるカリキュラム・マネジメント。</li> <li>⑤専門家との連携や研修等による教員の専門性の向上。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験学習や交流学习をとおして、他者との関わりの中での行動力や判断力を高めることができた。</li> <li>・道徳授業の実践について、月テーマと児童生徒の実態や他の教科領域との関連性について確認したり、評価したりすることができた。</li> <li>・寄宿舎では、寄宿舎生との話し合いをとおして集団生活を送る上での思いやりやルール・マナーへの意識を高めることができた。また、寄宿舎と学校間とで情報を共有しながら連携した支援ができた。</li> <li>・他者との対話をとおして自分の考えを広げたり、深めたり、相手に伝えたりする経験を積むことができる機会の設定が課題である。</li> <li>・自己の健康状態を振り返り、学習や学校生活の中で生じる様々なストレスへの対応ができるよう、養護教諭と連携しながら指導にあたる必要がある。</li> <li>・幼稚部では、幼児同士の関りにつながる保育内容の工夫が必要である。</li> <li>・道徳の月テーマについて、令和5年度の評価を基に児童の発達段階や各部の実態により即したものとなるよう見直す必要がある。</li> </ul>	<p>3 豊かな心と健やかな体の育成</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①発達段階や視覚障害の特性等を踏まえた道徳教育の推進。</li> <li>②特別活動や舎友会活動における自発的、自治的活動の工夫。</li> <li>③交流及び共同学習の内容の工夫。</li> <li>④スポーツ、文化・芸術的活動への積極的な参加。</li> </ol>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路担当者や保護者、施設等とも情報共有しながら生徒が進路選択をすることができた。</li> <li>・中学部では、進路指導の計画の見直しを行い、職場見学や職場体験を整理することができた。</li> <li>・卒業生を講師とした進路講演会の開催、進路だよりの発行をとおして生徒や保護者に進路に関する情報提供ができた。</li> <li>・寄宿舎では、寄宿舎生の自立に向けて調理実習や買い物を実施することができた。</li> <li>・キャリアパスポートの効果的な活用の仕方の検討と、生徒の進路決定につながる体験学習や学習活動の実践が課題である。</li> <li>・生徒の希望に沿った実習先や進路先の開拓が課題である。</li> <li>・進路に対する積極的な意識を保護者に浸透させていく取り組みの検討が課題である。</li> </ul>	<p>4 キャリア教育の推進</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①キャリア教育全体計画と授業との関連性の明確化。</li> <li>②自己理解、自己実現に向けたキャリアパスポートの活用。</li> <li>③臨床実習や現場実習等を含めた職業教育の充実。</li> <li>④A D L室の活用等による生活スキル指導の充実（寄宿舎）。</li> </ol>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・P T A活動の見直しを行い、保護者の意見を反映させたP T A活動を実施することができた。</li> <li>・関係機関への訪問により、盲学校が早期教育等の窓口であることを周知することができた。</li> <li>・令和6年度から導入されるコミュニティ・スクールについての保護者への理解啓発が課題である。</li> <li>・地域巡回相談会の開催方法についての検討と、他部署と連携した効率的な広報活動の実施に向けた訪問場所の精選が課題である。</li> </ul>	<p>5 地域に開かれた学校とセンター的機能の充実</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地域の小中学校等への積極的な支援と巡回相談早期教育相談、通級指導教室の充実。</li> <li>②適切な情報発信と認知度の向上。</li> <li>③P T Aや地域、教育・医療・福祉等の関係機関と連携した活動の推進。</li> <li>④コミュニティ・スクールの有効な活用方法の模索。</li> </ol>	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	全職員による安全・安心な教育環境づくり	・職員会議、子ども連絡会等を通じた日常の危機意識の維持及びヒヤリハット事案の共有	1-①～④ 2-⑤		
教職員の 育成及び 指導・監督	スローガン【「わかった」「できた」のある授業】の実現	・計画訪問や校内研究、年次研修の授業研究を活用した授業の評価・改善	2-①～⑤ 3-①～④ 4-①～④		
対外活動	地域交流の積極的な推進	・学校運営協議会の実施とその熟議結果を生かした交流の実施	4-①～④ 5-③④		
コンプライア ンス確保	教職員全体のコンプライアンス意識の醸成	・職員会議等での不祥事情報の共有 ・各部における研修及び全体研修の実施	2-③⑤		
働き方改革	学校平均超過勤務時間の低減	・ICT 機器利用の推進 ・随時の分掌事務の変更や行事、業務の見直し・廃止	2-① 5-⑤		
I C T活用	障害の状態に応じた幼児児童生徒の ICT 機器活用率の向上	・寄宿舎への Wi-Fi 環境の整備 ・ICT 機器を活用した研究推進	2-①②⑤ 4-④		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
国語	・「わかった」「できた」の喜びを引き出す授業実践に努める	・「わかった」「できた」のある「授業」に焦点を当てて各部の情報交換を行い、児童生徒の興味を引き出す指導の在り方について研修を深める。	①②④		
	・児童生徒の読解力と語彙力を高める。	・学習へのモチベーションを高めるために、各種コンクールへの作品応募を促したり、中学部高等部合同の授業による作品発表会を行ったりする。 ・読解力・語彙力を高めるための指導方法について各部の情報交換を行う。	①②		
社会	・裁判所見学や選挙出前講座など地域資源を活用した年間指導計画を作成する。	・見学や活動を行う前に関連する学習内容を学び、知識と体験を関連付けることができるような指導計画を立てる。	②③⑤		
	・触図や触察の時間を十分に確保し、生徒の気付きを大切に授業を行う。	・グラフや表などの意味するところを読み取って、学習内容をより理解できるような取り組みをし、教員間で情報共有する。 ・教師と児童生徒が学習前と学習後の理解度や興味・関心を把握する機会を設定する。	②③		
算数数学	・児童生徒の実態や進路に応じて、必要と思われる知識や技能を身に付けさせる。	・学習グループの編成や学習内容の精選を柔軟に行う。	②		
	・触れる・読む・書くを通して学んだ内容を様々な生活場面において活用しようとする態度を育てる。	・社会的ニュースや身の回りの出来事から多様に題材を取り上げ、話し合いや体験学習を行う。	②③④		
理科	・発達段階に応じた、触れる教材教具の工夫と系統性のある指導を行う。	・各部間で連携しながら、積極的に授業協力をする。 ・触れる教材教具の作成と研修を行う。	②		
	・理科室、薬品庫の整理、廃棄を適切に行う。	・長期休業等を利用しながら、定期的に備品、薬品の整理、廃棄を行う。 ・備品や消耗品の確認を行い、計画的に購入していく。	①		
保健体育	・児童生徒の主体的・協働的な学びの実現に向けた授業改善を行い、実践する。	・児童生徒自ら自分の課題に気付くことができるよう、ICTを活用したり、達成するための練習方法などを考えられる場面や児童生徒相互で話し合える時間を意図的に取り入れたりする。	①②③④		
	・視覚障害者スポーツ・運動に関する専門性の向上及び継承に努める。	・本校職員を対象に視覚障害者スポーツに関する研修会（陸上競技及び球技等）を開催し、競技の特性や指導・支援法について周知し合う。	②④		
音楽	・個々の障害、発達段階に対応できる音楽教育環境を整備する。	・楽器や教具、教室環境の管理と維持整備を行う。 ・音楽における「わかった」「できた」につながる指導内容を検討し、教科指導を通じた授業改善を行う。 ・点字楽譜研修会を通して他校と情報交換をしたり、課題解決に向けた研修を深めたりする。	①②④		
	・重複教育課程の年間指導計画の系統性を確認する。	・学習内容の系統性を踏まえ、次年度以降を見通した単元、題材を設定するようにする。	②④		
図工美術	・幼児児童生徒の発達段階に応じて育てたい力を整理して明確にし、環境や題材、手立ての設定を行う。	・「知識及び技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう人間性等」の三つの柱をさらに具体的な項目に分け、発達段階に合わせて育てたい力を検討し、教科指導に生かす。	②③④		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修により、発想・表現・鑑賞活動に有効な指導法について見識を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関視研（茨城主幹）などの機会を通して、外部機関の協力のもと、題材や指導方法についての見識を深める。</li> </ul>	①②		
外国語 (英語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開を行い、意見交換を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1回授業公開を実施し、互いの授業を見合い、指導内容やよりよい指導方法について話し合う機会を設ける。</li> </ul>	②		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修により教科の専門性を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部ごとに1回（年2回）教科内で研修を計画して実施する。</li> </ul>	②		
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の段階や実態に合わせた、実生活に生かせる知識や技術の習得を促す指導ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、情報交換や相互参観を行い、児童生徒の実態把握をし、課題の達成度合いを確認し、その後の指導に生かす。</li> <li>・見えにくさや生活経験不足をカバーするために有効な教材教具の選定や作成、指導方法の研修に努める。</li> </ul>	②③		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が安全・安心に学習できるように、被服室及び調理室の環境を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内及び備品・消耗品の適切な管理、整理、廃棄を行う。</li> <li>・児童生徒の担任の先生方と情報交換を適宜行い、安心して学習できているか等を確認、検討、改善する。</li> </ul>	①		
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月テーマと関連づけた道徳の授業実践の方法について研修する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部の取り組みについて授業参観や情報交換を行い、教材研究をする。</li> <li>・月テーマと児童生徒の実態、他の教科領域との関連性について検討する。</li> </ul>	②④		
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害教育における自立活動に関する研修や情報収集を行い、具体的な支援の方法について学ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の内容について希望を出し合い、その中からテーマを設定して、課題や意見を出し合いながら、身になる充実した研修となるようにする。</li> </ul>	②		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家からの指導助言を受けて、自立活動の指導に生かすと共に、学部内や校内で情報を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セラピスト等学校訪問事業と歩行訓練士派遣について、助言を受けた内容や自立活動の授業の経過等をまとめ、部内・校内で回覧したり、部会等で報告したりする。</li> </ul>	②⑤		
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び方や調べ方の基礎を育てる指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット、タブレット端末、電話、本等、児童生徒の障害特性にあった学習ツールの活用方法について情報を共有する。</li> </ul>	②③		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の生き方を考えることができるような探究活動や体験活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場見学や体験活動・交流活動を積極的に取り入れ、主体的な参加ができる活動を計画する。</li> <li>・各部相互に情報を交換し、学年、学部間の系統性や他教科との関連性について検討する。</li> </ul>	②③④		
重複	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者会での情報交換を密に行い、児童生徒一人一人の課題や改善策を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかった」「できた」から学びに向かう力を引き出す指導の工夫や、その他の課題等について、テーマを設定して情報共有する。</li> <li>・各部の授業の取り組みについて、授業見学や意見交換を行う。</li> </ul>	②③		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路情報、校内外の進路指導情報、研修情報などがあれば共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の進路先や保護者・生徒への進路指導の在り方やタイミングなどについて意見交換や情報共有する。</li> </ul>	④		
理療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的知識と技能の修得に努め、自らの問題を発見、解決できる力及び健康で円満な社会生活を営むことのできる人間性を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスの改善と検討、教材、教具の整理を行う。</li> <li>・授業改善研修を通じて適切な実態把握、「学びに向かう力」を引き出す授業作り、評価の在り方を検討する。</li> <li>・定期的に授業参観を実施するとともに理療関係学科として育てたい力を検討する。</li> </ul>	②		

教 務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グランドデザインの実現に向け、各部、校務分掌部間の連携・調整を適切に図り、幼児児童生徒が安心して生活できる安全な教育環境を保持し、円滑な教育活動の運営をする。</li> <li>・教員の事務的業務の削減・効率化を目指し、改善に努め、働き方改革の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども理解連絡会（幼児児童生徒の状況において全教職員が情報共有する機会）を職員会議後にもち、指導体制等の再確認を行い、安心・安全な教育環境作りに努める。</li> <li>・Google クラウドを積極的に活用し、各部間、校務分掌間の連絡・調整を迅速かつ効率的に行う。</li> <li>・連絡や資料提示等、情報機器を有効に活用し業務の効率化を推進するとともに、ワークバランスを意識した働き方ができるよう、コンプライアンス意識に基づいた業務の見直しを行う。</li> </ul>	①②③				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表簿作成等の業務の効率化と図るため、統合型校務支援システムの運用を段階的に進める。</li> <li>・学校徴収金の取り扱いについて、適正な会計処理が行われるように、関係職員と連携し周知を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当部・学年の校務支援システムによる出席簿・指導要録の作成が円滑に進むように他の係と連携し、担任への周知を行う。</li> <li>・学校徴収金の取り扱いについて、適切な処理・手続き・検査等が行われるよう、会計担当者への説明会を開催したり、関係職員へ適宜連絡を行ったりする。</li> </ul>	①				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標の実現に向けて、教科用図書採択事務を円滑に行う。</li> <li>・児童生徒及び教員が教科用図書や教師用指導書を活用しやすい環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員と連携し、教科用図書選定協議会や教科用図書選定委員会等、教科用図書選定に係る会議の適正な企画・運営に努める。</li> <li>・児童生徒の実態を適切に把握し、教科会や各部、教科書取扱書店と連携して、教科用図書及び教師用指導書の注文・配付・管理に努める。</li> </ul>	①②③				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型校務支援システムの運用を段階的に進める。</li> <li>・児童生徒及び教員が ICT を活用しやすい環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼、小1小2小4小5、中1中2、普1普2及び転入生の指導要録、幼小中学部、高等部普通科の出欠管理、高等部普通科の欠課管理、小中学部、高等部普通科の個別の教育支援計画及び個別の指導計画を校務支援システムで運用できるようにシステムを整備する。また、具体的な操作方法についてはマニュアルを作成し周知する。必要に応じて研修を行う。</li> <li>・授業等で必要なアプリや周辺機器の調査を行い、可能な限り使用できるようにする。</li> </ul>	①				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の利用と読書活動の推進、学校図書の活用を促す。</li> <li>・図書係や図書委員会活動の活性化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図書だより」を発行し、新着図書紹介などの情報提供を行う。</li> <li>・生徒や教職員のリクエストを受け付け、より蔵書を充実させる。</li> <li>・文化図書係のカウンター当番や「図書だより」の発行、蔵書整理等、日々の活動に着実に取り組む。</li> <li>・図書室の整理、本の紹介や図書展示の工夫をし、読書喚起を行う。</li> </ul>	①				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の充実に努め、実践的指導力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用教員研修や専門性研修の企画・運営を行い、専門性の向上を図る。</li> <li>・全日盲研、関視研、特教研などの各種研究会の連絡・調整を円滑に行う。</li> </ul>	①②				
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の円滑な活用や校内教育活動の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の目標設定や手立ての記入の改善を行い、全校で共通理解を図る。</li> <li>・各種様式作成の年間スケジュールや月の予定を掲示し、取りまとめする。</li> <li>・教材室を整理し、教材の所在や活用方法について情報を共有する。</li> </ul>	②③				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・マネジメントを研究主題とした校内研究を充実させるとともに、視覚障害教育の専門性向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の授業改善研修を計画・実施し、各部を中心に指導案の検討、授業の振り返りを行う。</li> <li>・各教科会等で、各部終了段階で育てたい力の整理を行う。</li> </ul>	②			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を教材及び情報保障機器として活用できる基礎的力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員への情報提供を積極的に行い、タブレット端末の活用を促進する。</li> </ul>	②			
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学指導を充実させ、登下校時の安全確保に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校付近や水戸駅、赤塚駅での通学指導、通学路の安全確認の充実を図り、登下校の安全対策強化に努める。</li> </ul>	①			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルの向上、いじめ防止の取組の推進を図り、いじめ、問題行動、事故等の未然防止に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ家庭のルール作り運動、スクールカウンセラーの派遣、情報モラル教室、生活チェックリスト・アンケートの実施、いじめ防止対策委員会を行うとともに、教員同士の情報共有を密に行うことで、情報モラルの向上、いじめ、問題行動、事故等の未然防止に努める。</li> </ul>	①			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動（生徒会活動、委員会活動）や部活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各活動が児童生徒にとって活躍できる場となり、自己有用感が高まるように児童生徒と計画的に準備を行う。</li> <li>・部活動については限られた活動時間でどれだけ質の高い活動ができるか工夫する。</li> </ul>	③			
保健安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の実態を把握し、健康管理、保健指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体測定や健康診断の結果を基に、学級担任・寄宿舎指導員との連携を密にとりながら、幼児児童生徒一人一人の健康管理に努める。</li> </ul>	①			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育における食育の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養職員を中心とした、各部学年の実態に応じた食に関する指導を推進し、食に関する指導の実践に努める。</li> </ul>	②④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関する避難訓練を通して、個々の防災に対する対応能力を高めるとともに適切な避難方法を判断する力を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練や安全点検を計画的に実施し、幼児児童生徒及び保護者、教職員の防災に対する理解及び意識の向上を図る。</li> </ul>	①④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の安全のための環境整備と環境美化に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部と連携し、安全点検、花壇等の管理、全校清掃活動を計画的に実施する。</li> </ul>	①④			
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者のニーズに応じた適切な情報提供に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査を行い、生徒、保護者のニーズを把握する。</li> <li>・進路だよりや保護者会、面談等で、あはき業や一般就労、福祉的就労、福祉サービス、進学等に関する情報提供を行う。</li> </ul>	④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や福祉施設等に向けて視覚障害教育の理解啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労体験や職場見学、現場実習等を通して企業や福祉施設、実習先に視覚障害教育への理解を促す。</li> </ul>	④⑤			
渉外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・地域社会・学校が互いに理解と関心を高め、連携して幼児・児童・生徒を育てようとする体制づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メール等を活用し、PTA活動を効率的に運営する。</li> <li>・コミュニティスクールの活動内容をPTAだよりで発信し、活動への理解と関心を高める。</li> <li>・運営委員の内容や方法を検討し、保護者が主体的に活動しやすい雰囲気づくりに努める。</li> </ul>	⑤			
視覚障害教育支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の小中学校等への積極的な支援と巡回相談、早期教育相談、通級指導教室の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回相談を通して、視覚障害の特性や配慮、学習・生活環境の整え方について助言する。</li> <li>・視力や視知覚機能などについて適切な実態把握を行い、個に応じた見えにくさの支</li> </ul>	②⑤			

	<p>充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な情報発信と認知度の向上により、見え方に困り感のある児童生徒や地域の方々の支援の充実に図る。</li> </ul>	<p>援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域巡回教育相談会（県北・県南）、ロービジョン機器相談会を通して、視覚障害に関わる専門的な相談・支援や情報提供を行う。</li> <li>視覚障害について、地域、教育、医療、福祉等の関係機関への適切な情報発信を行うことで、認知度の向上を図る。</li> </ul>	⑤			
寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの勤務シフトでも、緊急時に勤務者で連携し、冷静かつ迅速に、最善の対応が図れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練の反省を活かして対応改善を重ね、指導員一人一人が適切な避難方法を判断できる力を高める。</li> </ul>	①			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門性の向上に努め、視覚障害の特性を理解した個に応じた支援の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>舎生一人一人の特性や心身の状態を把握し、情報共有をもとに適切な支援を検討し、「わかった」「できた」がある効果的な支援につなげる。</li> </ul>	②			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑な運営のための職員の意識改革の推進（新分掌体制と新勤務体制）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい体制で指導員一人一人が寄宿舎全体のことを考えて協働を心がけ、より良い寄宿舎にするために協力連携し、より円滑な運営ができるように努める。</li> </ul>	⑥			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活体験を豊かにし、将来の自立を考えた生活ができるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の舎生活の中で、体験的に学べる機会を増やし、自立に向けて意欲を高められるようにする。（ADL室の活用を含む）</li> </ul>	④			
幼稚部	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の個々の発達や特性に応じた保育に努め、基礎的な生活習慣や態度を育て、心身の健康を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の保育の様子や発達検査等とおして、幼児の実態を把握し、医療・教育等の関係機関との連携に努めながら個に応じた保育の充実に図る。</li> </ul>	①②③④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での育児充実に図るため、保護者の支援に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の願いを受け止め、適切な支援ができるよう家庭との連携を密にするとともに、幼児の発達や保育に関する研修に努める。</li> </ul>	①②			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な保育環境の設定や体験活動の充実に努め、自主性や自律性を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児が安心して主体的に活動ができるように、幼稚部内の整理整頓を常に心掛け、安全に配慮した保育環境の整備に取り組む。</li> <li>幼児が身近な人やものに対する興味関心を高め、様々な経験を積むことができるように、実態に応じた体験活動を設定する。</li> </ul>	①②③④			
	<健康>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を十分に動かしたり、食に対する関心を高めたりしながら、健康な心と体を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことの喜びと自分でできる充実感を養うために、様々な運動遊びを継続して取り入れるとともに、身近な食材に触れたり味わったりすることができるよう保育活動を工夫する。</li> </ul>	①②③④		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活に必要な身の回りのことを、自分でしようとする態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>着替え・食事・排泄等の支援を個に応じてスモールステップで毎日繰り返し行うことで習慣化を図るとともに、自ら考え動けるように教室環境を整備する。</li> </ul>	①②④			
	<人間関係>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な人や友達と楽しく生活しながら関わりを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心して人と関わりがもてるように、幼児の気持ちを十分に受け入れた関わり方をするとともに、交流保育やごっこ遊び等の場面では、他者とやりとりをする機会を多く設定する。</li> </ul>	①③		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活における望ましい習慣や態度の基礎を築く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>約束やきまりに気付くことができるよう、生活や遊びの中で友達と同じ物を共有して使ったり、順番を守ったりする機会を設ける。</li> </ul>	③④			



	<p>&lt;環境&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と触れ合う中で、身近な環境への興味・関心を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節に応じた行事や散歩・栽培・生き物等、身近な自然環境に自分から関わるができるよう、戸外遊びや季節毎の体験活動の場を充実させる。</li> </ul>	②③④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有する感覚を活用して、周囲の状況を把握する力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の周りの環境に関心を持ち、状況を捉える力を育むことができるよう、触ったり聴いたりしてわかる教材・教具を用意するなどして保育環境を整える。</li> </ul>	①②④			
	<p>&lt;言葉&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちを言葉や身振りで表現したり、人の話を聞いたりして伝え合う喜びが味わえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に応じた言葉で話しかけたり、何かを伝えようとしている時には十分に受け止めて、思いを共有したりする。</li> </ul>	③④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験を通じた言葉の理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験が言葉と結びつくよう、身近なものに触ったり動作をしたりする際に、状況を説明する言葉を添える。また、場面に応じた言葉を使う機会を設定する。</li> </ul>	②③④			
	<p>&lt;表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で様々な体験を通して、豊かな感性を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音・形・手触り・匂い・味等に気付き、イメージを豊かにできるよう、本物に触れる実体験を重視した保育活動を取り入れる。</li> </ul>	②③④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことを自分なりの方法で表現して楽しむことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな素材に触れて遊んだり、作ったり、歌ったりすることができるよう、様々な素材の教材を用意し、環境を整える。</li> </ul>	②③④			
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年及び発達段階に応じた基本的な生活・学習習慣を身につけ、自主的・主体的に行動できる児童を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の障害の程度や特性を的確に捉えながら、課題解決に向けた目標を設定することで、自信や意欲の向上を促す。</li> <li>・保護者と課題及び目標を確認し合い、学校と家庭が同じ意識で児童の支援、指導にあたれるよう、面談や情報交換の場を充実させる。</li> </ul>	①②③④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に興味や関心を抱き、知識や技能を向上させようとする意欲を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、算数の指導に重点を置き、児童の学び方を把握しながら「読み・書き・計算」力の向上を図る。</li> <li>・児童が、自分の考えや思いを自ら表現・表出する場を設定した授業づくりに努める。</li> </ul>	②③			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とかかわる活動を通して、協力し合う心を養い、協働しながら安全に生活する態度を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なあいさつや返事など、相手を意識したコミュニケーションの充実を図り、相手を思いやる豊かな心の育成に努める。</li> <li>・学習の中に体験的な活動を効果的に取り入れたり、「交流及び共同学習」などの機会を活用したりして、自分で考え、行動する場を設定する。</li> </ul>	③④			
一般学級	<p>&lt;2年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の学年に応じた内容を学習するとともに、適切な言動で他者と関わる態度を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害特性に応じた学習方法を工夫し、体験的な活動を取り入れる。</li> <li>・日々の生活・学習の中で「できた」「わかった」と思える場面を増やし、自分に自信をもって生活できるよう、教材教具・言葉かけ等の工夫に努める。</li> </ul>	①②③			
	<p>&lt;5年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の向上を図るとともに、自ら考え行動する力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テストの実施と見直しを徹底するとともに、家庭学習の見直しを自分で行うことで、自身の課題に気づけるようにする。</li> <li>・友達との関わりの中で自分で考え、行動し、協力し合う心を養うことができるように、他学年・学級の友達とやり取りする場面や機会を設定する。</li> </ul>	②③			

	<p>&lt; 6年 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の向上を図るとともに、自ら考え行動する力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の振り返りや単元テストを行い、自分の課題に気付き、解決しようとする態度を養う。</li> <li>自分で考え行動できる力を育成するために、友達と関わりの中で主体的に考え行動する場面や機会を設定する。</li> </ul>	②③			
重複学級	<p>&lt; 1組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の発達に応じた基本的な生活習慣の確立や人とかかわる力、学習に向かう意欲を育てる。</li> <li>日常生活上の課題を把握し、それらを克服しようとする姿勢と態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の発達段階に応じた支援、教材教具の活用、安心して活動に取り組める環境づくりを行う。</li> <li>学習を重ねていく必要のある内容、すでに達成している内容を適宜評価し、支援内容を修正する。</li> <li>個々の実態を的確にとらえ、生活上課題となっている事柄を明確にしながら学習を進めることで、課題を意識しながら生活できるような環境を設定する。</li> <li>学校生活を安心して過ごすため、心理的な安定を図れるような計画・実践を行うようにする。</li> </ul>	②③④			
	<p>&lt; 2組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の発達に応じた基本的な生活習慣の確立や人とかかわる力、学習に向かう意欲を育てる。</li> <li>日常生活上の課題を把握し、それらを克服しようとする姿勢と態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の発達段階に応じた支援、教材教具の活用、安心して活動に取り組める環境づくりを行う。</li> <li>これから学習を重ねていく必要のある内容、すでに達成している内容を適宜評価し、支援内容を修正する。</li> <li>個々の実態を的確にとらえ、生活上課題となっている事柄を明確にしながら学習を進めることで、課題を意識しながら生活できるような環境を設定する。</li> <li>学校生活を安心して過ごすため、心理的な安定を図れるような計画・実践を行えるようにする。</li> </ul>	③④			
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力を基盤とした、自ら学ぼうとする意欲や課題解決能力の育成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に即した指導計画を作成し、読み、書き、触察等を含む基礎学力の定着、向上とそれらを活用する力を身に付けることを目指し、各教科において生徒の実態に応じた体験的な活動や、ICTや資料を効果的に活用した指導を行う。</li> </ul>	②③			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間や相手との対話を通して、相手を尊重し、よりよい関係を築こうとする態度を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いや協働することを通して、活躍できる場面や自発的・自治的な活動の機会を積極的に作り、他者と自己の違いやよさに気付くことができるよう場を設定する。</li> </ul>	①②③④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害に基づく課題を主体的に改善・克服し、社会生活に必要な知識や技能、態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の卒業後の進路や望ましい社会生活を想定し、障害の状態、目標や課題における適切な実態把握、定期的な情報共有を行い、担当する教員の専門性向上に努めるとともに、生徒の自己理解や進路への意識向上につながるよう指導の計画と充実を図る。</li> </ul>	②③④			
一般学級	<p>&lt; 1年 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に学習に臨み、基礎学力の定着を図る。</li> <li>中学生の発達段階に応じた、社会性や協調性を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の基本事項の定着を図るとともに、自立活動と連動させながら中学部段階に応じた、読む、書く、触察する力を養うことができるように指導を行う。</li> <li>キャリアパスポートを活用したり、他学年との合同授業などを行い、他者と対話することで自分の考えを広めたり、深めたりすることが出来るような場面を設定する。</li> </ul>	②③			
	<p>&lt; 2年 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題をもって学習に臨む態度を育て、基礎学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTや資料等を効果的に活用することで、学習の基礎事項の定着と、資料を読み取る力や自分の考えを表現する力を養うことができるよう指導を行う。</li> </ul>	②③			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己理解を深め、将来に向けた自立のための基礎を培う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポートや職場体験などを活用して、自己の良いところを理解したり、将来の社会参加に向けて必要な学習を行ったりすることで、進路選択の基礎を培うようにする。</li> </ul>	①②③④			
	<p>&lt;3年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の学習成果を把握するとともに基礎学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科においてこれまでの学習を再確認し、学習課題を精選した上で生徒の実態に即した指導を行う。</li> <li>自主学習で自分の学習課題を見つけられるよう、学習計画を立てる指導を行う。</li> </ul>	②③			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来を見据え、自分の進路について考え、必要な能力を培う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポートを活用して、自己の良いところや特技を確認し、進路に関する情報をもとに、自分に必要な能力を考えられるよう指導を行う。</li> </ul>	①②③④			
重複学級	<p>&lt;1組&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携を密にし、個に応じた生活、学習の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の教育支援計画等を活用しながら、連携を密にし、将来の進路や生活を見据えた生活指導及び学習指導をスモールステップで段階的に行う。</li> </ul>	②③④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の進路を見据えた身辺自立のための態度と技能を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者への情報提供を行い、自立活動に関する目標と指導の手立てを適切に策定し、各教科領域の教員が共通理解のもとに一貫した指導体制をとる。</li> </ul>	①②③④			
高等部 本科 普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の課題を明確に意識し、学校生活や学業に意欲的に取り組む態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケース会、学部会、普通科会等で生徒の情報を共有し、個々の学びの特性や課題についての共通理解をとおして、生徒自身に課題意識をもたせ、実態に応じた課題解決の意欲につなげる。</li> </ul>	②③④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習上または生活上の困難さを主体的に改善・克服できる知識と技能を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修等で教員が視覚障害の特性について理解するとともに、将来の社会生活を想定して生徒に必要な指導課題を考え、積極的に解決していけるような関わり方や場面設定に努める。</li> </ul>	①②③④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の社会生活を見通し、自主性や協調性を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に関する活動等を利用して、卒業後の生活に向けた身辺自立面、作業能力面、社会性及び対人関係面等の課題を明確にし、解決に向け努力する姿勢を養う。</li> </ul>	①②③④			
一般学級	<p>&lt;1年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の向上に努めるとともに、自分の適性を知り、将来の進路選択に生かそうとする態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を明確にしたわかりやすい授業に努め、学習習慣の定着、基礎学力の向上を図るとともに、外部テスト等で客観的評価への理解を促す。</li> <li>個々のニーズに応じた進路に関する情報提供を行う。</li> </ul>	①②			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動全般を通して、自主性、自律性を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内外での集団活動及び様々な体験学習を意図的に周知したり、計画的に実施したりして、行動力や判断力の向上に努める。</li> </ul>	②③④			
	<p>&lt;2年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動全般を通して、確かな学力や広い視野、社会性、課題解決能力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の予習復習を行うことで、学習内容の定着を図るとともに、視野を広めたり社会性を養ったりできるよう交流活動や体験学習、集団活動（課外活動）の充実に努める。</li> </ul>	①②③			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路学習全般を通して、目的意識を持って主体的に自己実現を図る能力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望する進路に対してスケジュールや受験内容を把握して適切な学習計画、中間目標を設定し、外部テスト等の結果と照らし合わせて適宜目標の修正を行う。</li> </ul>	②③④			
	<p>&lt;3年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の障害や適性を踏まえた進路選択をし、卒業後の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入学試験にむけて外部テストを行いながら、自分自身の達成状況や新たな課題を理解するとともに、課題解決型の学習や体験、キャリアパスポートを活用した活</li> </ul>	②③④			

	<p>具体的な生活に必要な力を身に付けられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後に必要となる知識や技能、社会性を養い、自活能力の向上を図る。</li> </ul>	<p>動に取り組むようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路関連行事や学校生活で学んだことを横断的に振り返る場面を設定することで、学習内容について理解を深めたり、視野を広げたりできるようにする。</li> </ul>	②③④			
重複学級	<p>&lt; 1 組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全で安心な生活が送れるように自ら意識して生活できるようにする。</li> <li>学習や生活に見通しを持ち、自主的に活動に取り組むことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級での活動、課題学習や調べ学習、係活動等に取り組む中で、自ら考え、行動することへの意識を高め、自主的、主体的に活動することができるようにする。</li> </ul>	①②③④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の進路を見据えた身辺自立のための態度と技能を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路についての課題や見通しについて保護者との連携を密にし、共通理解を図る。また、周囲の状況を的確に把握したり、周囲に合わせた行動を考えたりする判断力を養う。</li> <li>作業学習や実習等を通して、日常生活及び社会生活に必要な知識、技能を身に付ける。</li> </ul>	②③④			
	<p>&lt; 2 組 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習や生活に見通しを持ち、協力して活動に取り組むことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級での活動、課題学習や調べ学習、係活動に取り組む中で、周囲と協力して考え行動することへの関心を高め、共同的な学びができるようにする。</li> </ul>	①②③④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の進路を見据えた身辺自立のための態度と技能を高める。</li> <li>自己理解を深め、生活環境を整えとともに、適切に援助依頼を行えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自分の気持ちを言葉で適切に表現したり、体の調子に応じた行動を考えてとったりするような判断力が向上するよう支援する。</li> <li>自分の気持ちや行動について振り返る機会を設け、教員との話し合いの中で自己を相対化できるようにする。</li> <li>作業学習や現場実習等を通して身に付けた日常生活及び社会生活に必要な知識、技能を自分の生活に生かせるようにする。</li> </ul>	②③④			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療に関する専門的知識と技能の修得に努め、自らの問題を発見、解決できる力及び健康で円満な社会生活を営むことのできる人間性を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門的知識と技術の定着を図るため指導力の向上と授業の充実に努める。</li> <li>進路を踏まえ、関係機関との連携に努める。</li> </ul>	②			
本科 保健 医療科	<p>&lt; 3 年 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験合格を目指し、あん摩マッサージ指圧師に必要な知識・技術の定着と、学力向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験や理療科模擬試験で課題を明らかにし、科目担当者間で情報を共有するとともに、必要に応じて補習を計画する。</li> </ul>	③			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会自立に向けて施術者としての態度を育成し、豊かな人間性を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内及び校外臨床実習、見学実習を通して、知識・技術を深めるとともに、施術者としての心構えを養う。</li> </ul>	④			
専攻科 保健 理療科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理療・保健理療に関する専門的知識と技能の修得に努め、自らの問題を発見、解決できる力及び健康で円満な社会生活を営むことのできる人間性を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的知識と技術の定着を図るため指導力の向上と授業の充実に努める。</li> </ul>	②			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路を踏まえ、関係機関との連携に努める。</li> </ul>	④			
	<p>&lt;1年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あん摩マッサージ指圧師に必要な基本的知識や技術の修得を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚補助具や電子教科書の活用を促すなど、学習環境の整備に努める。</li> <li>・各科目担当者との連携を密にし、学習状況の把握及び情報の共有に努める。</li> </ul>	②			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会自立に向け必要となる能力及び態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に応じた自立活動の課題を設定し、主体的に取り組めるよう支援する。</li> </ul>	③④			
	<p>&lt;2年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あん摩マッサージ指圧師として必要な専門的知識と技能の習得に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目担当者との連携を図り、学習状況を把握し指導に活かす。</li> </ul>	②			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会自立に必要な能力と態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に応じた社会生活に関する課題を設定し支援する。</li> </ul>	③④			
	<p>&lt;3年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験の合格を目指し、あん摩マッサージ指圧師に必要な知識・技術の定着と、学力向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の模擬試験を実施するとともに、個に応じた補習を計画し実施する。</li> </ul>	②			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会自立に向けて施術者としての態度を育成し、豊かな人間性を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内及び校外臨床実習、夏季理療見学実習等を通して技術の定着や施術者としての心構えを養う。</li> </ul>	③④			
専攻科 理療科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理療・保健理療に関する専門的知識と技能の修得に努め、自らの問題を発見、解決できる力及び健康で円満な社会生活を営むことのできる人間性を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的知識と技術の定着を図るため、指導力の向上と授業の充実に努める。</li> </ul>	②			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路を踏まえ、関係機関との連携に努める。</li> </ul>	④			
	<p>&lt;1年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に必要な基礎的知識及び技術の向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に応じて ICT 機器の活用や実技練習の場を設けることで主体的に学ぶ力を養う。</li> </ul>	②			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施術者として自己の健康管理に努めるとともに豊かな人間性と態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健主事と連携し、自己の障害の状態や健康面への関心を高めることで、障害への理解や自己管理能力の向上を図る。</li> <li>・面談等で自己の発言や他者とのやり取りを振り返ることで、コミュニケーション能力の向上に努める。</li> </ul>	③			

<p>&lt; 2年 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の臨床に必要な専門的知識と技術の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目担当者と連携し、生徒自身が課題と向き合い、その解決に向け努力できるよう支援する。</li> </ul>	②			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療従事者としての態度と社会自立に向けた能力の育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技科目を中心とした学習指導の中で、医療従事者の心構えと自己管理能力の向上に努める。</li> </ul>	③④			
<p>&lt; 3年 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験の合格を目指し、知識の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験、模擬試験で課題を明らかにし、各教科担当者と連携して課題を共有するとともに必要に応じて補習を計画する。</li> </ul>	②			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望する進路に向けて知識と技術を高め、医療従事者としての人間性を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内外の臨床実習、見学実習を通して必要な力を自覚し、社会性、人間性の育成に努める。</li> </ul>	③④			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない